

第4学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ わくわく算数学習				
小単元	時	ページ	学習内容	
(課題設定)	1	6～9	○10や100を単位にした1位数でわるわり算の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方など算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	

1 角とその大きさ					
目 標				指導時数・時期	
○ 角について、分度器を用いてその大きさを測ったり、ある大きさの角をかいたりする方法を理解し、いろいろな角の大きさやその和や差について考えたり説明したりすることを通して、角の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬	
(知)・角の大きさを回転の大きさとして捉えることができる。 ・角の大きさの単位(度(°))について知り、角の大きさを測定することができる。 (思)・図形の角の大きさに着目し、角の大きさを表現したり、図形の考察にいかしたりしている。 (態)・角の大きさについて、数学的に表現・処理したことをふり返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	140	・3年「三角形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	10～11 12～13	・扇と図を使って角の大きさの意味を丁寧に確認する。	○まるく開く扇をつくる。【知・技】 ○扇を使っていろいろな角の大きさをつくることを通して、回転してできる形を角としてとらえる。 【知・技】 ○単元の課題をつかむ。【態 度】	
	2	14～15		○角度の単位について知り、分度器の仕組みを調べる。【態 度】 ○分度器を使って角の大きさを測定する。【知・技】	★長さやかさの学習を想起し、大きさの違いを数で表すとよいという見通しを持つ。 ★もっと練習 p.144に進む。
	3	16～17	・直角(90°)を基準に見当をつけて測らせる。 ・問6では、測った三角定規の角に角度を示していく。	○辺の長さが短い場合や角の向きが反対の場合に、工夫して角の大きさを測る。【思判表】 ○正三角形、二等辺三角形、三角定規などの角の大きさを知る。【知・技】	
	4	18～19	・問1では、まず、前時で調べた三角定規の角度を確認する。	○1組の三角定規を組み合わせでできる角の大きさを考え、角の大きさの計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.144に進む。
	5	20～21	・問1は、180°の補助線を引いてから考えさせる。	○半回転や一回転の角の大きさについて理解し、180°より大きい角を工夫して測ったり、その求め方を説明したりする。【思判表】	★複数の解決方法を考える。
	6	22		○30°の角をかく。【知・技】 ○200°の角のかき方を考える。【思判表】	★問2では、複数の解決方法を考える。
	7	23		○角のかき方を使って三角形を作図する。【思判表】	
学びのまとめ	8	24～25	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態 度】ふりかえろう	

2 折れ線グラフ					
目 標				指導時数・時期	
○ 身のまわりの事象について、折れ線グラフを用いたデータの整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6時間 2学期制：4月下旬～5月上旬 3学期制：4月下旬～5月上旬	
(知)・折れ線グラフを用いると、伴って変わる2つの数量の変化の様子をわかりやすく表すことができることを理解している。 ・折れ線グラフの特徴とその用い方を理解している。 (思)・変化の様子を折れ線グラフに表して考察している。 (態)・表や折れ線グラフに表現することで視覚的に分かりやすくなるよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	140	・3年「表とグラフ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	

(課題設定)	1	26	・問1で、折れ線グラフのよみ方を丁寧に確認する。	○気温の変化の表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 【態 度】 ○気温の変化を表した折れ線グラフをよむ。【知・技】	★棒グラフと折れ線グラフを比較させて、その違いを話しあう。
①変わり方を表すグラフ		27			
	2	28～29	・「線のかたむきぐあい」「大きい」「小さい」の意味をしっかりとおさえる。	○折れ線グラフの線の傾きに注目し、変化の様子をよみとる。【思判表】 ○折れ線グラフの線の傾きから、変化の上下や大小をとらえる。 【知・技】	
②折れ線グラフのかき方	3	30～31		○折れ線グラフをかく。【知・技】	
	4	32～33	・問3では、十分な大きさの方眼紙を使って折れ線グラフをかく。	○変化の様子がわかりやすくなるように、一部を省略する波線を使って折れ線グラフをかく。【思判表】 ○身のまわりから折れ線グラフが使われている場面を見つける。 【態 度】	★よくわかる折れ線グラフにするために、どのようにしたらよいか、また、そのよさを話しあう。 ★もっと練習 p.145 に進む。
③2 つのことがらを表すグラフ	5	34～35	・問2では、どちらの縦軸をよむのかをしっかりと確認する。	○2 つの折れ線グラフや、折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフをよむ。【思判表】	
学びのまとめ	6	36～37	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1・問3 【思判表】 たしかめよう問2 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。1 つのグラフに表し直して考察する。

3 1 けたでわるわり算の筆算

目 標					指導時数・時期
○ 1 けたでわるわり算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2,3 位数)÷(1 位数)の筆算や簡単な(2 位数)÷(1 位数)の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10 時間 2 学期制：5 月上旬～5 月下旬 3 学期制：5 月上旬～5 月下旬
(知) ・除数が 1 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解している。また、その筆算の仕方について理解している。 ・除法について、(被除数) = (除数) × (商) + (余り) の関係を理解している。 (思) ・除数が 1 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の除法の計算の仕方を考えている。 (態) ・既習の計算を活かして、答えを見積もりながら主体的に筆算や暗算の計算の仕方を考えようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	141	・3 年「わり算」「あまりのあるわり算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	38	・導入では、実際に 10 枚の束を 7 組とばらの 2 枚の色紙を見せて、結果や方法の見通しをもたせる。	○72÷3 の立式をして、具体物を使ってその計算の仕方を考え説明する。【思判表】 ○単元の課題をつかむ。【態 度】	
①(2 けた)÷(1 けた)の筆算		39			
	2	40～41	・問2では、前時の具体物の操作と照らし合わせながら筆算の仕方を全体で確認する。 ・問2の①で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 5 時で扱うことも可)	○具体物を使った計算の仕方をもとに、72÷3 の筆算の仕方を考える。【態 度】 ○(2 位数)÷(1 位数)の筆算をする。 【知・技】	★もっと練習 p.146 に進む。
	3	42	・問6の①で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 5 時で扱うことも可)	○93 枚の色紙を 4 枚ずつ配る場面で、筆算で商と余りを求める。【思判表】 ○余りのある(2 位数)÷(1 位数)を筆算で計算し、答えを確かめる。【知・技】	★もっと練習 p.146 に進む。
	4	43	・問8の①で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 5 時で扱うことも可)	○68÷2 や 83÷4 などの位ごとにわり切れる場合や一の位の商に 0 が立つ場合の筆算をする。【知・技】	★もっと練習 p.146 に進む。
●練習	5	44		○学習内容を確実に身につける。	
②(3 けた)÷(1 けた)の筆算	6	45	・問2までを確実に身につけさせる。 (問3は次時の導入で扱うことも可)	○既習の筆算の仕方をもとに、843÷3 などの(3 位数)÷(1 位数)の筆算の仕方を考える。【態 度】	
	7	46～47	・問6の①④や問7の①で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 8 時で扱うことも可)	○642÷6 や 252÷6 などの商に空位がある場合の筆算をする。【知・技】	★もっと練習 p.146 に進む。 ★(4 位数)÷(1 位数)の問題をつくり、筆算の仕方を考える。
●練習	8	48		○学習内容を確実に身につける。	

③暗算	9	49	・10円玉や5円玉のお金の模型を使って考える。	○簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。【知・技】	★もっと練習 p.147 に進む。
学びのまとめ	10	50～51	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問1～問3 【思判表】 たしかめよう 問4・問5 【態度】 ふりかえろう	・コラム「外国のわり算の筆算のしかた」について考察し、数値を変えて試してみる。

＊ ふく習				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	52～53	○既習事項の確認と持続	

4 一億をこえる数					
目 標				指導時数・時期	
○ 億や兆をこえる数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月上旬	
(知) ・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めている。 ・×(3位数)の筆算ができる。 (思) ・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えたとともに、それらを日常生活に生かしている。 ・×(2位数)の筆算の考えをもとに、×(3位数)の筆算の仕方を考えることができる。 (態) ・整数の表し方について、数学的に表現・処理したことをふり返り、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	141	・3年「一万をこえる数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	54	・導入では、示された世界の国々の人口のうち、オーストラリアやケニアで、既習の1億までの数について確認する。	○世界の国々の人口をみて、一億をこえる大きな数について調べていくという単元の課題をつかむ。 【態度】	★もっと練習 p.147 に進む。
①億と兆		55	・問2では、位取り板に数を使って数をかいたりよんだりする。	○十億の位までの数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。 【知・技】	
	2	56	・問4や問5では、位取り板を使って数をかいたりよんだりする。	○都道府県や国の予算をよむことを通して、億や兆の位の仕組みを調べる。【思判表】 ○4桁ごとに「万」「億」「兆」と区切って大きな数をよんだり、かいたりする。【知・技】	★もっと練習 p.147 に進む。
	3	57	・問6の④では、えんぴつくんのような見方を想起してから、相対的な大きさを考えさせる。	○3億2000万という数を、加法的な見方や相対的な見方からとらえる。【態度】 ○一億をこえる数を表した数直線をよむ。【知・技】	★もっと練習 p.148 に進む。
	4	58～59		○位に着目して、1億を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの数について調べる。【思判表】	★もっと練習 p.148 に進む。
	5	60		○13個の数字を並べて、13桁の数をつくり、どんな整数も0から9までの数字を使って表すことができることをとらえる。【思判表】 ○0から9までの10個の数字をすべて使ってできるいちばん大きい13桁の数をつくる。【知・技】	★p.65のコラム「兆より大きな数の位」で、大きな位について知る。 ★もっと練習 p.148 に進む。
②大きな数の計算	6	61		○数の相対的な見方・考え方を働かせて、35億+28億や63兆－35兆の計算をする。【思判表】 ○百×百＝1万、1万×1万＝1億を使って、大きな数のかけ算をする。 【知・技】	★もっと練習 p.149 に進む。
	7	62	・問3の①③⑤で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認として扱うことも可)	○既習の×(2位数)の筆算の仕方をもとにして、(3位数)×(3位数)を筆算で計算する。【知・技】	★えんぴつくんのような計算をしてもよい理由について考える。 ★もっと練習 p.149 に進む。
学びのまとめ	8	63～65	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問1・問2・問5 【思判表】 たしかめよう 問3・問4 【態度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

5 垂直・平行と四角形

目 標					指導時数・時期
○ 2 直線の位置関係について、その交わり方に着目して垂直・平行の意味を理解し、四角形を平行な辺の組の数で分類してその特徴を調べることを通して、四角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。 (知) ・直線の平行や垂直の関係について理解している。 ・平行四辺形、ひし形、台形について知っている。 (思) ・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直している。 (態) ・平行四辺形、ひし形、台形などについて、数学的に表現・処理したことをふり返り、多面的に捉え検討し、生活や学習に活用しようとしていたりしている。					13 時間 2 学期制：6 月上旬～6 月下旬 3 学期制：6 月上旬～6 月下旬
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	142	・4 年「角とその大きさ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	66	・導入では、写真や絵をもとに、まずは直線の意味を確認してから、その交わり方に着目させる。	○道路の交わり方から、直線の交わり方を調べていくという単元の課題をつかむ。【態 度】 ○2 直線の交わり方を調べ、角が直角のもをみつけて垂直の意味を理解する。【知・技】	
①垂直と平行		67～68		○2 直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解する。【知・技】 ○垂直や平行な直線を身のまわりからみつける。【態 度】	
	2	69		○平行な 2 直線の幅を調べ、一定であることをとらえる。【思判表】 ○長方形の辺における垂直・平行の関係を調べる。【知・技】	
	3	70～71		○1 組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。【知・技】	
②垂直や平行な直線のかき方	4	72～73		○垂直や平行な直線のかき方を使って、長方形や正方形をかく。【思判表】	★複数のかき方を考える。 ★もっと練習 p.149 に進む。
	5	74		○方眼紙の上で 2 本の直線の垂直や平行な関係をみつけたり、かいたりする。【知・技】	
	6	75	・方眼紙のます目が正方形であることをおさえた上で、正方形の性質を確認する。	○カードの点をつないでいろいろな四角形をつくり、辺の平行関係に着目して分類する。【態 度】 ○台形と平行四辺形について知る。【知・技】	
③四角形	7	76～77		○平行四辺形の辺や角の大きさに着目して、その性質を調べる。【思判表】	
	8	78		○平行四辺形の作図の仕方を考える。【思判表】	★複数のかき方を考える。 ★もっと練習 p.150 に進む。
	9	79		○ひし形について知り、辺や角の大きさに着目して、その性質を調べる。【思判表】 ○ひし形のかき方を知る。【知・技】	
	10	80		○対角線について知り、平行四辺形やひし形の対角線の交わり方に着目して、その性質を調べる。【思判表】	★「他の四角形はどうだろうか」と調べる対象を拡張し、主体的に取り組むように促す。
	11	81		○ひし形を対角線で切ったときにできる三角形がどのような三角形かを調べる。【知・技】	★「他の四角形はどうだろうか」と調べる対象を拡張し、主体的に取り組むように促す。
	12	82		○平行四辺形を敷き詰める。【知・技】 ○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つける。【態 度】	★ひし形や台形についても敷き詰められるかを調べる。
学びのまとめ	13	83		○学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問 1～問 3 【思判表】 たしかめよう問 4 【態 度】 ふりかえろう	★一般四角形が敷き詰められるかや同位角の大きさを調べる。
学びのまとめ	14	84～85	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。		

6 小 数					
目 標				指導時数・時期	
○ 小数について、十進位取り記数法にもとづいて 1/1000 の位までの小数の表し方について理解し、大小を比べたり、たし算ひき算のしかたを考えたりすることを通してその理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 (知)・小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めている。 ・小数の加法及び減法の計算ができる。 (思)・端数部分の大きさを小数で表すとき、0.1の単位をつかったときの考えをもとに、0.01の単位をつくることを考えている。 ・ $\frac{1}{100}$ の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などと関連づけて考えている。 (態)・小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法の仕組みで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。 ・小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されているから同じように計算できるというように気づいている。				9 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬	
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび (課題設定)	—	142	・3 年「小数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
①小数の表し方	1	86	・導入では、既習の 1/10 の位までの小数について確認し、0.1L は 1L の 1/10 であることをおさえる。	○液量図をみて、既習の 0.1L を単位として表せないかさがあがあることをとらえ、単元の課題をつかむ。 【態 度】 ○1/100 の位までの小数の表し方を知る。【知・技】	★より小さいかさを表すには、0.1L をさらに 1/10 すればよいことを見通す。 ★もっと練習 p.150 に進む。
	2	87			
②小数のしくみ	3	88	・問 3 では、まず、1km=1000m であることを確認する。	○1289m を km 単位で表すことを通して、1/1000 の位までの小数の意味を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.150 に進む。
	4	89	・問 1 では、1 の 1/10 が 0.1、その 0.1 の 1/10 が 0.01 といったことを数直線と対応させて視覚的にとらえさせ、小数の十進数の仕組みの理解をはかる。	○1, 0.1, 0.01, 0.001 の相互の関係を調べ、1/1000 の位までの小数の十進数としての仕組みをとらえる。【思判表】	★問 2 を発展させて、1 の 1/10000 の数を小数で表したり、100 や 1000 が 0.1, 0.01, 0.001 の何倍かを考えたりする。
	5	90～91	・問 1 では、9.368 の各数字が何の位かを、前時の学習をもとに確認する。	○9.368 という数を、加法的な見方や相対的な見方からとらえ、整数との統合をはかる。【態 度】	★もっと練習 p.151 に進む。
	6	92	・問 6 では、まず、p.58～59 に戻り、整数の場合で調べたことを確認する。	○位に着目して、0.34 を 10 倍や 100 倍したり、10 や 100 でわったりしたときの仕組みを考える。【思判表】	★もっと練習 p.151 に進む。
③小数のたし算・ひき算	7	93		○整数のときと同じように大きい位の数から順に比べていき、1.515 と 1.57 の大小を判断する。【思判表】	★もっと練習 p.151 に進む。
	8	94	・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○5.74+3.21 や 5.74-3.21 の計算の仕方を考え、説明する。【思判表】 ○小数の加減計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.152 に進む。
学びのまとめ	9	95		○いろいろな場合の小数の加法や減法を、筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.152 に進む。
	9	96～97	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1～問 3 【思判表】 たしかめよう問 4 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

活 わくわく算数ひろば				
小単元	時	ページ	学習内容	
●算数ラボ	1	98～99	○ルーローの三角形づくりを通して、身のまわりのものを数学的にとらえてみることのおもしろさを知る。	
●算数の自由研究	2	100～101	○「ふしぎな輪」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	

* ふく習				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	102～103	○既習事項の確認と持続	

7 2けたでわるわり算の筆算					
目 標				指導時数・時期	
○ 2けたでわるわり算の筆算について、1けたでわるわり算をもとにその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の筆算の仕方やわり算の性質についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～9 月下旬	
(知) ・2 位数でわる計算の仕方や除法に関して成り立つ性質がわかり、(何十)でわる計算や2 位数でわる筆算ができる。 (思) ・商が1 位数になる除法をもとに、商が2 位数になる除法の筆算の仕方を考える。 ・除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かしている。 (態) ・商が2 位数になる除法の筆算の仕方を選んで考え出そうとする。 ・除法に関して成り立つ性質を活用して、工夫して計算しようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	142	・4 年「1 けたでわるわり算の筆算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	104	・問2の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○買い物の場面で、 $80 \div 20$ の立式をして、単元の課題をつかむ。 【態 度】 ○10 円玉を使って、(何十)でわるわり算の仕方を考える。【思判表】 ○(何十)でわって商が1 桁で余りのない計算ができる。【知・技】	★もっと練習 p.152 に進む。
①何十でわるわり算		105			
	2	106～107	・問2の①や問5の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○ $80 \div 30$ や $170 \div 30$ で商と余りを求める計算の仕方を考える。【思判表】 ○(何十)でわって商が1 桁で余りのある計算ができる。【知・技】	★もっと練習 p.153 に進む。
②商が1 けたになる筆算	3	108～109	・問1では、具体物の操作と照らし合わせながら商の見当のつけ方や筆算の仕方を確認する。 ・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○ $96 \div 32$ や $96 \div 24$ で、商の見当づけと筆算に取り組む。【態 度】 ○(2 位数) \div (2 位数)の筆算の仕方を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.153 に進む。
	4	110	・問7の①や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○前時の学習をもとに、(3 位数) \div (2 位数)で商が1 桁になる筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(3 位数) \div (2 位数)の筆算の仕方を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.153 に進む。
	5	111	・大きい仮商を立て、1 ずつ小さくして修正する方法で定着をはかる。 ・問2の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○仮商の修正の仕方を考えながら、筆算する。【思判表】 ○仮商の修正の仕方を理解し、筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.154 に進む。
③商が2 けた、3 けたになる筆算	6	112	・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○商が2 桁になる(3 位数) \div (2 位数)の筆算の仕方を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.154 に進む。
	7	113	・問6の①③④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(3 位数) \div (2 位数)の筆算の仕方をもとに、(4 位数) \div (2, 3 位数)の筆算の仕方を考えて計算する。【態 度】	★もっと練習 p.154 に進む。
●練習	8	114		○学習内容を確実に身につける。	
④わり算のせいしつ	9	115	・お金の教具を使って、わり算の性質が成り立つことを具体的にとらえさせる。	○商が等しいわり算の計算を比べ、わり算に関して成り立つ性質について調べる。【思判表】	★もっと練習 p.155 に進む。
	10	116	・ $25 \times 2 = 50$, $50 \times 2 = 100$ となることから、 $25 \times 4 = 100$ となることを確認する。	○わり算の性質を活用して、工夫して計算する。【思判表】	★複数の解決方法を考える。 ★もっと練習 p.155 に進む。
学びのまとめ	11	117	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1・問2 【思判表】 たしかめよう問3 【態 度】 ふりかえろう	

8 割 合					
目 標				指導時数・時期	
○ 2つの数量の関係について、整数の場合で何倍になるかという割合を用いて比較したり割合から数量を求めたりすることを通して、割合の意味とそれを用いる場面について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月下旬	
(知)・簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知っている。 (思)・日常の事象における数量の关系到着目し、2つの数量の関係を割合を利用して比べて考察することができる。 (態)・割合を利用して、2つの数量の関係を比較しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	143	・3年「何倍でしょう」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	118	・関係図を示し、何倍かを考えるときには関係図を使ってきたことを想起させる。	○イルカとクジラの成長度合いを考えることを通して、単元の課題をつかむ。【態 度】	★関係図のかき方をかいて、確実に解決できるようにする。
①割合		119	・関係図のかき方をしっかりと身につけさせる。	○イルカの体長の伸び方とクジラの体長の伸び方を、割合で比べる。 【知・技】 ○関係図のかき方をしっかりと身につけさせる。p.160【知・技】	
	2	120～121	・関係図にかいてから考えさせる。	○フライドポテトやジュースの量を比較した場面で、比較量や基準量の求め方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.155に進む。
②何倍になるかを考える	3	122	・関係図を示し、3つの数量の関係のとらえ方を確認する。 ・2倍の3倍は5倍ではないことを、数直線とテープの図でおさえる。	○3つの建物の高さを比較した場面（ $\square \times a \times b = c$ ）で、順に考えたり、何倍になるかに着目してまとめて考えたりして解く。【思判表】	★複数の解決方法を考える。 ★自力で関係図にかいて解決する。
	4	123	・関係図にかいてから考えさせる。	○3人の体重を比較した場面（ $\square \times a \times b = c$ ）で、何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解く。【思判表】	★自力で関係図にかいて解決する。 ★割合の問題をつくり、解きあう。

9 式と計算の順じよ					
目 標				指導時数・時期	
○ ()のある式や四則の混じった式について、計算の順序を理解し、いろいろな式の意味や計算のしかたを考えたり説明したりすることを通して、式と計算のきまりについての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬	
(知)・四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算することができる。 ・四則に関して成り立つ性質についての理解を深めている。 (思)・交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。 ・式をよみ、具体的な場面や思考の筋道を考えている。 (態)・式の扱いに関心をもち、()を使って1つの式に表したり、具体的に即して式をよみとろうとしたりする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	143	・2年「しきと計算」「九九のきまり」、3年「式と計算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	124	・問1では、()の使い方を確認する。	○買い物の場面で、 $120+90 \times 3$ と立式して、計算の順序について考えていくという単元の課題をつかむ。【態 度】	★問4のような問題をつくり解きあう。 ★もっと練習 p.156に進む。
①式と計算の順じよ		125		○()を使って1つの式に表して、その計算をする。【知・技】	
	2	126		○四則混合の計算を1つの式に表したとき、乗除を先に計算することや乗除の()は省いてよいことを理解する。【知・技】	★もっと練習 p.156に進む。
	3	127		○四則混合の式の計算の順序を説明する。【思判表】 ○四則混合の計算の仕方を理解する。【知・技】	
②計算のきまり	4	128～129		○60円のカードを5枚、40円のカードを5枚買ったときの合計や差の求め方から、分配法則を導く。 【態 度】 ○交換・結合・分配の3つの法則を理解する。【知・技】	★コラム「たし算やかけ算のきまり」で、加法や乗法の交換法則、結合法則が成り立つことを確かめる。
	5	130～131	・問3では、①③⑤⑦で計算の工夫の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で取り扱うことも可)	○交換、結合、分配法則などの計算のきまりを活用し、工夫して計算する。【知・技】	★もっと練習 p.156に進む。

③式のよみ方	6	132		○基石の数を求めるいろいろな式を図と結びつけて考え、式の意味を説明する。【思判表】	
④計算の間の関係	7	133	・ことばの式をかいてから、□を使った式に表す。	○□を使って $\square \times 4 = 24$ や $\square \div 4 = 6$ と立式し、乗除の関係から□の求め方を考える。【態度】 ○乗法と除法、加法と減法の相互関係を理解している。【知・技】	★問2のような問題をつくり解きあう。 ★もっと練習 p.157 に進む。
学びのまとめ	8	134～135	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問3・問4 【思判表】たしかめよう問2・問4 【態度】ふりかえろう	★やってみように取り組む。

● そろばん					
目 標				指導時数・時期	
○ そろばんについて、そろばんを用いた小数や大きな数の表し方を理解し、その加減の計算を通して、そろばんの構造やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1 時間	
(知) ・そろばんによる小数や大きな数の表し方、加法及び減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて小数や大きな数の簡単な加法及び減法の計算ができる。				2 学期制：10 月中旬	
(思) ・整数の加減をもとに、小数の加減の計算の仕方を考えることができる。				3 学期制：10 月中旬	
(態) ・そろばんについて関心を持ち、進んで加減の計算に取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
○そろばん	1	136～138		○第3学年で学習した整数の加減のそろばんの計算処理をもとに、小数の加減や大きな数の計算をする。【知・技】	

★ 学びのサポート	
ページ	学習内容
140～143	・じゅんび
144～157	・もっと練習
158～171	・算数しりょう集

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

10 面 積					
目 標				指導時数・時期	
○ 長方形や正方形の面積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、面積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う、				10 時間 2 学期制：10 月中旬～10 月下旬 3 学期制：10 月中旬～10 月下旬	
(知) ・面積の単位（平方センチメートル（ cm^2 ）、平方メートル（ m^2 ）平方キロメートル（ km^2 ））について知っている。 ・正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解している。 (思) ・面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えると同時に、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。 (態) ・図形の面積を表すことに関心をもち、長方形や正方形の求積公式を利用して、身のまわりにあるものの面積を求めようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	120	・1 年「大きさをくらべ」、2, 3 年「長さ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	2	・導入では、㊸と㊹、㊺と㊻の周りの長さは同じであるが、広さは違うことをおさえる。	○花壇の広さ比べを通して、面積の表し方や求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。 【思判表】	★長さやかさの学習を想起し、広さの違いを数で表すとよいという見通しを持つ。
①面積		3			
	2	4～5	・問 1 では、結果をふり返り、㊼と㊽の周りの長さは同じであるが、面積は違うことをおさえ、面積の調べ方の理解をはかる。	○面積の単位 cm^2 について知り、縦 3cm、横 5cm の長方形や 1 辺 4cm の正方形の面積を cm^2 を使って表す。【知・技】 ○ 1cm^2 を単位にして、いろいろな形の面積を求めたり、 4cm^2 の面積を方眼紙上でつくったりする。 【態 度】	
	3	6～7	・ 1cm^2 の正方形が単位になっていることを確認しながら進める。	○長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考え、公式を導く。【思判表】	★もっと練習 p.124 に進む。
②面積の求め方のくふう	4	8～9		○L 字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積を長方形の体積公式を使って求め、説明する。【思判表】	★複数の解決方法を考える。 ★もっと練習 p.124 に進む。
③大きな面積	5	10	・問 1 では、まず、 $1\text{m}=100\text{cm}$ であることを確認する。	○面積の単位 m^2 について知り、縦 7m、横 9m の長方形の形をした教室の面積を m^2 を使って表す。 【知・技】	★もっと練習 p.124 に進む。
	6	11	・問 3 では、まず、面積は単位正方形の何個分かで表してきたことを確認して、課題をつかませる。	○縦 200cm、横 4m の長方形の掲示板的面積を求める。【思判表】 ○ m^2 と cm^2 の単位間の関係を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.125 に進む。
	7	12	・問 1 では、まず、 1m^2 の大きさがどのくらいかを予想させ、1 辺 1m の正方形をイメージすればよいことをおさえる。	○ 1m^2 の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその面積を求めたりする。【態 度】	
	8	13		○単位 km^2 について知り、縦 2km、横 4km の長方形の形をした土地の面積を km^2 を使って表す。【知・技】 ○ km^2 と m^2 の単位間の関係を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.125 に進む。
④面積の単位の関係	9	14～15	・正方形の 1 辺の長さの関係をもとに、 1m^2 、 1a 、 1ha 、 1km^2 の関係をとらえさせる。	○面積の面積の単位 a 、 ha について知り、 a 、 ha を使って面積を表す。【知・技】 ○ a 、 ha と m^2 の単位間の関係を理解する。【知・技】 ○地域の地図を活用する。【知・技】	★地域の地図を活用して、大きな面積の量感を伸ばす。
学びのまとめ	10	16～17	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1 ～問 3 【思判表】 たしかめよう問 4 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

＊ ふく習			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	18～19	○既習事項の確認と持続

11 がい数とその計算

目 標					指導時数・時期
○ 身のまわりの数量の表し方について、目的に応じて概数で表されることがあることを理解し、その表し方を考えたり、概数で計算する仕方を説明したりすることを通して、概数の意味やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬
(知) ・概数が用いられる場合について知っている。 ・四捨五入について知っている。 ・目的に応じて四則計算の結果の見積りを行うことができる。 (思) ・数のしくみにもとづいて、概数の表し方を考えることができる。 ・また、目的に応じた見積もりの仕方を工夫することができる。 (態) ・日常生活で使われている概数を進んで調べ、目的に応じて概数で表したり、概算したりしようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	120	・3年「一万をこえる数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	20	・導入では、サッカースタジアムに何人くらいが入れるかを予想させ、概数を使って大まかに数量をとらえるよさに触れるとよい。	○サッカーの入場者数 42816 人を 43000 人とおよその数で表した場面で、概数の意味を知り、単元の課題をつかむ。【態 度】	★もつと練習 p.125 に進む。
①がい数の表し方		21～22	・「切り上げ」「切り捨て」「四捨五入」の意味をしっかりと確認する。	○概数の表し方について調べ、あるきまった位を四捨五入にする方法を理解する。【知・技】	
	2	23	・前時の学習を確認してから、問 3 に取り組ませる。 ・問 4 「上から 2 けたのがい数」はどの位を四捨五入するか確認する。	○2098804 人と 377598 人のように桁数の違う数を概数にする方法について考える。【思判表】 ○ある位までの概数にする方法と、上から 1 桁や 2 桁の概数にする方法があることを理解する。【知・技】	★もつと練習 p.125 に進む。
	3	24	・問 1 では、はじめに、百の位までの概数であることを確認し、何の位が四捨五入されているかを問う。	○約 500 羽と表したときの実際の数の範囲を、四捨五入の仕方をもとに考える。【思判表】 ○「以上」「未満」「以下」を使って数の範囲を表す。【知・技】	★もつと練習 p.126 に進む。
	4	25	・問 1 では、1 目盛りの大きさをふまえて、どの位を四捨五入すればよいかを考えさせるようにする。	○1 万をこえる数量を棒グラフに表すのに、概数を用いる。【思判表】 ○身のまわりから、使われている概数をみつける。【態 度】	
②がい数の計算	5	26～27	・実際値の計算に電卓を使ってもよい。	○和や差を概数で求めるときの仕方を考える。【思判表】 ○加減の概算の仕方を理解する。【知・技】	★複数の解決方法を考える。 ★もつと練習 p.126 に進む。
	6	28		○積を求める概算の仕方を考える。【態 度】 ○乗法の概算の仕方を理解する。【知・技】	★もつと練習 p.126 に進む。
	7	29		○積の概算の仕方をもとに、商を求める概算の仕方を考える。【思判表】 ○除法の概算の仕方を理解する。【知・技】	★もつと練習 p.127 に進む。
学びのまとめ	8	30～31	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1 ・問 2 【思判表】 たしかめよう問 3 【態 度】 たしかめよう問 4 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

思 図を使って考えよう

目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して解法を考えることを通して、逆思考で順にもどす考え方をを使って 3 要素 2 段階の問題を解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬
(知) ・順にもどして考えて解く方法を理解し、3要素2段階の問題を図に整理し、問題の解決にいかすことができる。 (思) ・3要素2段階の問題を図に整理し、順にもどして解決することができる。 (態) ・順にもどして考えることに関心をもち、進んで問題に取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	32	・問題を図に整理する仕方を示し、考えさせる。	○□×6+100=960 となる場面で、「順にもどして」考えて解決する。【思判表】	
	2	33	・問題を図に整理してから考えさせる。	○□÷5+6=15 となる場面で、「順にもどして」考えて解決する。【思判表】	★似た問題をつくって解きあう。

12 小数のかけ算やわり算					
目 標				指導時数・時期	
○ 小数と整数のかけ算やわり算について、整数の計算をもとにしてその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、(小数)×(整数)、(小数)÷(整数)の計算や筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				16 時間 2 学期制：11 月中旬～12 月中旬 3 学期制：11 月中旬～12 月中旬	
(知) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の意味やその仕方を理解し、(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算ができる。 (思) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の意味やその仕方について、整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりなどをもとにしたりして考えることができる。 (態) ・小数の仕組みや計算のきまりを用いて、(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の仕方を考えようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	121	・4 年上「小数」「一億をこえる数」「式と計算の順じょ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	34	・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○模型の列車 4 両分の長さを求めるのに 0.2×4 と立式し、単元の課題をつかむ。【態 度】 ○乗法九九の範囲で、(小数)×(整数)の計算をする。【知・技】	★図や式を使って、複数の計算の仕方を考える。 ★もっと練習 p.127 に進む。
①小数のかけ算		35		○ 2.3×6 や 0.23×6 の計算の仕方を考える。【思判表】 ○(小数)×(1 位数)の計算をする。【知・技】	★前時と同じように、複数の計算の仕方を考える。 ★もっと練習 p.127 に進む。
	2	36	・問 7 の①や問 8 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○整数の筆算の仕方をもとに、 2.3×6 の筆算の仕方を考える。【態 度】 ○(小数)×(1 位数)を筆算で計算する。【知・技】	★被乗数や乗数の桁数を増やした問題をつくり、取り組む。 ★もっと練習 p.128 に進む。
	3	37	・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○乗数が 1 位数のときをもとに、(小数)×(2 位数)の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(小数)×(2 位数)を筆算で計算する。【知・技】	★かける数から 3 けたや 4 けたの問題を考え、解きあう。 ★もっと練習 p.128 に進む。
	4	38	・問 7 の①や問 8 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○学習内容を確実に身につける。	★(小数)×(整数)になる問題をつくり、解きあう。
●練習	5	39			
②小数のわり算	6	40～41	・問 4 の①⑤や問 5 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○リボンを分けるのに $0.6 \div 3$ と立式し、単元の課題をつかむ。【態 度】 ○乗法九九の範囲で、(小数)÷(整数)の計算をする。【知・技】	★図や式を使って、複数の計算の仕方を考える。 ★もっと練習 p.128 に進む。
	7	42	・問 8 の①や問 9 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○被除数を整数にするだけではわからない $2 \div 4$ や $0.2 \div 5$ のような場合の計算の仕方を考える。【思判表】	★前時と同じように、複数の計算の仕方を考える。 ★もっと練習 p.129 に進む。
	8	43	・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○整数の筆算の仕方をもとに、 $7.2 \div 3$ の筆算の仕方を考える。【態 度】 ○(小数)÷(1 位数)を筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.129 に進む。
	9	44	・問 7 の①⑦で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○ $4.92 \div 6$ や $0.329 \div 7$ などの、商が純小数になる場合や商に空位の 0 がある場合の筆算をする。【知・技】	★もっと練習 p.129 に進む。
	10	45	・問 11 の①④や問 12 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(小数)÷(2 位数)を筆算で計算する。【知・技】	
	11	46	・問 1 では、余りの大きさは除数より小さいこと、また、わり算の答えを確かめる方法について確認する。	○テープを 3m ずつ分ける場面で $13.6 \div 3$ と立式し、商を一の位まで求めてその余りの大きさを考える。【思判表】 ○(小数)÷(整数)で商と余りを求める計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.130 に進む。
	12	47		○(整数、小数)÷(1, 2 位数)でわり進む場合の筆算の仕方を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.130 に進む。
	13	48	・問 5 の㉗や㉘で、概数にする方法をふり返らせる。	○(整数、小数)÷(1, 2 位数)で、商を適当な位までの概数で表す筆算の仕方を理解する。【知・技】	★もっと練習 p.130 に進む。

●練習	14	49		○学習内容を確実に身につける。	★(小数)÷(整数)になる問題をつくり、解きあう。その場合、わり切れないときの処理の仕方にも留意させる。
③小数倍	15	50～51	・問1の⑦では、関係図を示し、何倍かを考えるときには関係図を使ってきたことを想起させる。	○12cm が 10cm の何倍かや、16cm が 10cm の何倍かを考える。【思判表】 ○何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。【知・技】	
学びのまとめ	16	52～53	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1 【思判表】 たしかめよう問2・問3 【態度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
●見積もりを使って	1	54～55	○100 や 1000 などのまとまりをつくって結果を見積もり、判断することができる。
●どんな計算になるのかな	2	56～57	○根拠にもとづいて、整数の四則計算の演算決定をすることができる。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	58～59	○既習事項の確認と持続

13 調べ方と整理のしかた

目 標				指導時数・時期	
○身のまわりの事象について、二次元の表を用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4 時間 2 学期制：1 月中旬 3 学期制：1 月中旬	
(知) ・データを 2 つの観点から分類整理する方法を知っている。 (思) ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、問題解決のために考察している。 (態) ・目的に応じてデータを集め、それを分類整理して、特徴を調べようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	122	・3 年「表とグラフ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	60～61 62～63	・導入では、p.61 の資料を概観させて、整理しないとわかりにくいことをもとに整理する観点を話しあわせる。	○けが調べから、2 つの事柄について整理した表を用いて解決しようという単元の課題をつかむ。【態度】 ○「1 週間のけが調べ」の資料をもとに整理した二次元の表のよみ方を理解する。【知・技】	
	2	64～65		○二次元の表のかき方を理解し、落ちや重なりがないように二次元の表をかく。【知・技】	★他の 2 つの観点を選び、表を作成する。 ★もっと練習 p.131 に進む。
	3	66～67	・⑥の表からわかること、⑦の表からわかること、⑧の表からわかること、といふように順序立てて考えさせる。	○二次元の表を考察し、特徴や傾向を見いだす。【思判表】 ○二次元の表を自分たちの生活にかさねてみる。【態度】	
学びのまとめ	4	68～69	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1・問3 【思判表】 たしかめよう問2 【態度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

思 表を使って考えよう


目 標				指導時数・時期	
○文章題において、情報を二次元の表に分類・整理して解法を考えることを通して、2 つの観点の組み合わせを考えて問題を解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1 時間 2 学期制：1 月中旬 3 学期制：1 月中旬	
(知) ・2 つの観点からの情報を 2 次元の表で整理することを知っている。 (思) ・2 つの観点からの情報を 2 次元の表に整理できる。 (態) ・いろいろな情報を、2 次元の表などに整理して、考えようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
(課題設定)	1	70～71		○ハイキングの場面で、どの町から来た人がどの果物を選んだかを、表を用いて分類・整理して解決する。【思判表】	★同じような問題をつくり、解きあう。場面を設定したら、表を先につくらせるとよい。

14 分 数

目 標					指導時数・時期
○ 分数について、1 より大きい分数の表し方や等しい分数について理解し、同分母分数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7 時間 2 学期制：1 月下旬～2 月上旬 3 学期制：1 月下旬～2 月上旬
(知) ・1 より大きい分数を仮分数でも帯分数でも表すことができる。 ・簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知っている。 ・同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。 (思) ・分数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりしている。 (態) ・1 より小さい分数の意味をもとにして、1 より大きい分数の意味について考えようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ (課題設定)	—	122	・3 年「分数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
①1 より大きい分数の表し方	1	72	・分数の意味として、1m を 3 等分した大きさを $\frac{1}{3}m$ と表すことや $\frac{1}{3}m$ の 2 個分が $\frac{2}{3}m$ と表すことを確認する。	○両手を広げた長さを、 $\frac{1}{2}m$ や $\frac{1}{3}m$ などを単位として測定することを通して、1 より大きい分数について調べていくという単元の課題をつかむ。【態 度】	★もっと練習 p.131 に進む。
		73		○いろいろな分数を 1 を基準にして分類し、真分数や仮分数について理解する。【知・技】	
	2	74～75		○分子を分母でわった商とあまりに着目して、仮分数を整数や帯分数に直す仕方を考える。【思判表】 ○仮分数を整数や帯分数に直す。【知・技】	★もっと練習 p.131 に進む。
②分数のたし算・ひき算	3	76～77	・問 6 では、数直線を活用して考える。	○帯分数を仮分数に直す仕方を考える。【思判表】 ○帯分数を仮分数に直したり、分母の等しい帯分数や真分数の大小比較をしたりする。【知・技】	★もっと練習 p.132 に進む。
	4	78	・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○ $\frac{4}{5}+\frac{3}{5}$ や $\frac{6}{5}+\frac{2}{5}$ などの同分母分数の加法(和が 1 より大)や減法(被減数が 1 より大)の計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.132 に進む。
	5	79	・問 1 では、途中の計算式のかき方に注意させる。 ・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○ $1\frac{2}{5}+\frac{4}{5}$ や $1\frac{2}{5}-\frac{4}{5}$ の計算の仕方を考える。【思判表】 ○帯分数を含む同分母分数の加減を計算する。【知・技】	★複数の解決方法を考える。 ★もっと練習 p.132 に進む。
③等しい分数	6	80～81		○分母や分子がちがう分数で、大きさの等しいものがあることを、数直線を使って理解する。【知・技】	★問 2 では、分母もしくは分子が同じときの分数の大きさの比べ方について考察する。
学びのまとめ	7	82～83	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問 1・問 2・問 4 【思判表】 たしかめよう問 3・問 5 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	84～85	○既習事項の確認と持続

15 変わり方					
目 標				指導時数・時期	
○ 伴って変わる 2 つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して、表やグラフを用いた関数的な見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間	
(知) ・伴って変わる 2 つの数量の関係を明確にするために、資料を表に表したりグラフを用いて表したりできることを理解している。				2 学期制：2 月上旬～2 月中旬	
(思) ・伴って変わる 2 つの数量の関係を表に整理して、変化や対応の特徴を考察している。				3 学期制：2 月上旬～2 月中旬	
(態) ・表やグラフ、式に表された変化や対応の特徴をふり回り、それぞれの表し方のよさに気づき、さらに考察を進めようとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	123	・3 年「□を使った式」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	86	・導入では、ストローを並べる操作を通して、縦と横の長さの关系到気づかせる。	○周りの長さをきめて長方形をつくることを通して、縦と横の長さの変わり方について調べていくという課題をつかむ。【態 度】	
		87		○長方形の縦と横の長さの関係を表にかいて調べる。【知・技】	
	2	88		○長方形の縦と横の長さの関係を調べた表をもとに、縦の長さを○、横の長さを△として式に表す。【知・技】	
	3	89		○正方形を階段状にならべたときの段数と周りの長さの関係を表にかいて調べたり、○や△を使った式に表して調べたりする。【思判表】	
	4	90		○テーブルの数と座る人数の変わり方を表にかいて、きまりをみつける。【思判表】	
	5	91		○きまりを使って問題を解決する。【知・技】	★問 5 の場合で、段数と正方形の数の関係を表にかいて調べ、きまりをみつける。
				○水そうの水の量と全体の重さの関係を、折れ線グラフに表す。【知・技】	
				○折れ線グラフから適切に情報をよみとり、問題を解決する。【思判表】	
				○学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問 1・問 2 【思判表】 たしかめよう問 2 【態 度】 ふりかえろう	
学びのまとめ	6	92～93	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問 1・問 2 【思判表】 たしかめよう問 2 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

16 直方体と立方体					
目 標				指導時数・時期	
○ 直方体と立方体について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取り図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間	
(知) ・直方体や立方体について、見取り図や展開図をかいたり、直線や平面の平行・垂直の関係を調べたりして理解する。				2 学期制：2 月中旬～3 月上旬	
(思) ・直方体、立方体を構成する要素（面、辺、頂点）及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し、図形の性質を捉えることができる。				3 学期制：2 月中旬～3 月上旬	
(態) ・直方体や立方体に関心をもち、進んでそれらの性質を調べようとしたり、それらの形を身のまわりから探そうとしたりする。					
・ものの位置を数を利用して、的確に表そうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	123	・2 年「はこの形」、4 年上「垂直・平行と四角形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定) ①直方体と立方体	1	94	・導入では、まず、箱の形の面の数は 6 個であることを確認する。	○面から箱をつくることを通して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。【態 度】	★導入で、面の形だけをみて、どのような箱の形ができるかを考える。
		95～96		○直方体や立方体の意味を理解する。【知・技】	
	2	97	・問 1 では、最初に正面からかくこと、同じ長さの辺は同じに長さになるようにかくことをおさえる。	○見取り図のかき方を知り、直方体や立方体の見取り図をかく。【知・技】	
	3	98	・問 1 では、箱を切り広げた様子を示して展開図の見通しを立てさせる。	○展開図のかき方を知り、直方体の展開図をかく。【知・技】	

	4	99		○立方体の展開図をいろいろ考える。【思判表】	★いろいろな展開図を考えて、コラム「立方体のてん開図」のどれかになっていることを確かめる。
②面や辺の平行と垂直	5	100	・実際に箱を用意して、三角定規や下敷きなどを使いながら確かめさせる。	○直方体の面と面の平行や垂直の関係を理解する。【知・技】 ○身のまわりから、平行や垂直な面を見つける。【態度】	
	6	101	・実際に箱を用意して、三角定規や下敷きなどを使いながら確かめさせる。	○直方体の辺と辺の平行や垂直の関係を理解する。【知・技】 ○身のまわりから、平行や垂直な直線を見つける。【態度】	
	7	102	・実際に箱を用意して、三角定規や下敷きなどを使いながら確かめさせる。	○直方体の面と辺の平行や垂直の関係を理解する。【知・技】 ○身のまわりから、平行や垂直な面と直線を見つける。【態度】	
●練習	8	103	・工作用紙などで展開図や箱をつくらせておき、実際に操作しながら考えさせたり答えを確かめたりする。	○学習内容を確実に身につける。	
③位置の表し方	9	104～105		○駅といろいろな場所が記された図をみて、駅を基準にしたときの位置の表し方を考える。【思判表】 ○平面上にあるものの位置を、2つの数の組で表す。【知・技】	★もっと練習 p.133 に進む。
	10	106		○空間にあるものの位置を、3つの数の組で表す。【知・技】	★もっと練習 p.133 に進む。
学びのまとめ	11	107	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問1・問2・問4 【思判表】 たしかめよう 問3 【態度】 ふりかえろう	★実際の世界地図を使って、緯度と経度でいろいろな場所の位置を表す活動に取り組む。

活 わくわく算数ひろば				
小単元	時	ページ	学習内容	
思 だれでしょう	1	108～109	○示された条件を表に整理し、順序良く推論して問題を解くことができる。	
●みらいへのつばさ	2	110～111	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、ごみの量についての問題を解決できる。	
	3	112～113	○食料自給率の課題を話しあい、課題解決に向けた計画を考える。	

＊ もうすぐ5年生（4年のふく習）			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	114～115	○5年生の学習内容の確認と持続
	2	116～117	
	3	118	

★ 学びのサポート	
ページ	学習内容
120～123	・じゅんぴ
124～133	・もっと練習
134～142	・算数しりょう集

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。